

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	経済学 (後期)	
科目基礎情報							
科目番号	0169		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	生産デザイン工学科 (情報システムコース)		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	使用しない						
担当教員	畔津 憲司,白神 宏						
到達目標							
<p>1. 自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な経済のしくみを説明できる。</p> <p>2. 世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。</p> <p>3. 経済に関するメディア情報を適切に受信・活用することができる。</p>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	基礎的な経済のしくみを正しく説明できる。		基礎的な経済のしくみをおおまかに説明できる。		基礎的な経済のしくみを説明できない。		
評価項目2	持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から正しく展望できる。		持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点からおおまかに展望できる。		持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できない。		
評価項目3	経済に関するメディア情報を適切に受信・活用することができる。		経済に関するメディア情報をほぼ適切に受信・活用することができる。		経済・経営に関する基礎的用語及びそれらに関連するメディア情報を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	生活の基盤となっている経済の仕組みを学び、卒業後の社会人生活に備える。						
授業の進め方・方法	とくに基礎知識は必要としないが、本授業を機会に新聞やニュースを見るように心掛けて欲しい。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	合理的意思決定について①	経済学的な意思決定問題のうち2項選択の最適化問題の基礎を理解する。			
		2週	合理的意思決定について②	経済学的な意思決定問題のうち数量的最適化問題の基礎を理解する。			
		3週	ゲーム理論を用いた戦略の考え方①	交互ゲームと同時ゲームの基礎を理解する。			
		4週	ゲーム理論を用いた戦略の考え方②	シグナリングゲームの基礎を理解する。			
		5週	交渉の基本構造	交渉理論の基礎を理解する。			
		6週	価格設定の基本戦略①	価格戦略の基本について説明ができる。			
		7週	価格設定の基本戦略②	差別価格戦略の具体例が挙げることができる。			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	社会的分業と経済組織の形成	比較優位による分業、分業のインセンティブを理解する。			
		10週	組織運営のケーススタディー①	情報、意思決定権限、インセンティブの観点から授業紹介事例を理解する。			
		11週	組織運営のケーススタディー②	情報、意思決定権限、インセンティブの観点から授業紹介事例を理解する。			
		12週	市場経済システムによる組織運営	市場経済システムによる経済の制御の基本を理解する。			
		13週	価格メカニズム (1)	市場価格、需要曲線、供給曲線の概念を理解する。			
		14週	価格メカニズム (2)	価格メカニズムによる市場価格決定と需要調整の仕組みを理解する。			
		15週	価格メカニズムの進展	価格メカニズムをサポートする近年のビジネス動向を理解する。			
		16週	定期試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3		
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3			
評価割合							
		試験	演習・レポート	合計			
総合評価割合		90	10	100			
基礎的能力		90	10	100			